龍谷大学生持ち込み企画

有田市 縁側発見新聞 No.08

このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生の皆さんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどでの活動を通じて感じた“縁側”の魅力を多くの人に伝えるため、学生自ら取材を行い、記事を書いています。
今回はJR箕島駅で出会った高校3年生の山田睦己さんにお話を伺いました。
※ここでの“縁側”とは、“ホッとできる自分の居場所”という意味です。

中学時代の青春の1ページ

山田 睦己さん
港町 在住

私たちは今回、インタビューを行うために箕島駅前に向かった。夕方であったため、停車する電車からは帰宅途中の学生が多く降りてきた。その中で、私たちは高校3年生の山田睦己さんにお話しを伺った。帰宅途中であったにもかかわらず、私たちが声をかけると快く答えてくださった。

睦己さんが紹介してくれた縁側は、港町にある防波堤の先にある海岸である。そこは白い砂浜と壮大な海が広がる素晴らしい景色となっている。そこへ辿りつくまでにも、ランニングをしている人や、土手でつりをしている人、日陰で談笑している人々など、様々な「日常」を垣間見ることができる。

この海岸は睦己さんが中学生の頃、地元の友人たちとの遊び場としてよく訪れていた。奥まった場所にあり穴場スポットとなっていたため、自分たちだけの憩いの場として親しんでいたそうだ。暑い夏になると、海で泳いだり、岩場から海へ飛び込んだり、談笑したり、一日中そこで友人たちと過ごすこともあったと笑顔で話してくれた。

そして、睦己さんはこの海岸であるエピソードをもっている。中学3年生の夏、いつものように海へ飛び込み水面から顔をあげた時、沢山のクラゲに囲まれていることに気付いた。その中を泳いで岸に戻るしかなかったため怖い思いをしながら戻ったが、幸いにもクラゲには刺されず、今では笑い話として話されているそうだ。

高校3年生になった今では訪れることがなくなってしまったが、この海岸は睦己さんの中で中学時代の青春を過ごした、いつまでも色あせることのない思い出の場所としてこれからもあり続けるのであろう。

思い出の海岸

取材を終えて・・・

海岸へ実際に訪れて感じたことは、穏やかな雰囲気で有田市の中でも一際心が落ち着く場所であるということです。

また、夕暮れ時は夕焼けがとても綺麗でどこか懐かしい気持ちを呼び起こしてくれました。

有田市での取材を重ねる度にこのまちの魅力に惹かれていき、私たちは取材を始めた頃よりさらに素敵なまちだと認識しました。また、海岸へ足を運ぶ道中でも市民の方から話しかけてくださり、まちの温かさに何度も触れる機会があり、これからもこのまちとひとと関わっていきたいと強く思った取材となりました。ありがとうございました。

左：宮田 澪 右：良元 雪華

広告

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり、有田市の良さを伝えてくれます。

今回のこども特派員は、保田小学校6年生の雑賀 聖さん、小西 那々花さん、梅本 華さん、村上 海里さん、古川 依吹さんです。

※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。

1300年以上の歴史を誇る 須佐神社

わたしたちは保田地区の良い所を知ってもらうために、須佐神社について調べました。須佐神社は「千田神社」とも呼ばれ、1300年以上の歴史を誇る大きな神社です。毎年恒例の千田祭りでは、大人みこし、子供みこし、鯛投げ神事やお餅投げなどがあり、たくさんの人たちを楽しませてくれています。

須佐神社の歴史

須佐神社は、はじめ大和国吉野郡西川峰にあったのを、和銅六年(七一三)に移されたと伝えられています。天正七年(五七九)秀吉攻めの際に燃やされてしまいましたが、その後、徳川頼宣によって再建されたそうです。江戸時代には、「国学」で有名な本居宣長も千田神社に詣でていたそうです。

昔の千田祭りの行事では、流鏑馬や騎馬行列などもあったそうですが、今では鯛投げ神事だけが残っています。

鯛投げ神事が、今の時代まで続いているなんて、驚きました。

長い歴史のある須佐神社

迫力ある大人みこし

10月14日は千田祭りでした。おみこしが降りてくる時、先に大きなかけ声が聞こえました。その後、男の人たちが、声をかけ合いながら、階段の上をおみこしをすべらせながら降りてきました。すごい勢いで、おみこしが壊れるかと思うくらいの迫力でした。おみこしを担いでいる人たちは、とても重そうにしていましたが、みんなで協力して無事に降りてくることができました。

迫力の大人みこし

先ぱい 教えてください

おみこしを担がれていた上野山俊顕さん、上野山隆仁さん、上野山義英さんにお話をうかがいました。

—おみこしはどんなところが楽しいですか。

年に二回しか会えない人とも、一致団結してコミュニケーションをとれるのが楽しいです。

—おみこしを担ぐのはこわいと思うのですが、どうして参加しようと思ったのですか。

おみこしには『神様』と『責任感』と『誇り』が乗っているからですね。

—未来の担ぎ手に一言お願いします。

20歳になったら、一度は担いでほしいです。最初はしんどいかもしれないけれど、多くの友達と仲良くなれるので、ぜひ担いでほしいですね。

おみこしを担いだ先ぱいたち

お話を聞いて、お祭りのおみこしは、ただ担ぐだけではなく、地域の交流の場にもなっており、みんなが仲良くできるようにという願いが込められているんだなと思いました。

私たちも、千田のおみこしを未来につなげていきたいと思いました。

そして、1300年以上前から続く須佐神社の伝統を守っていきたいです。

広告